



すずらんジャーナル

船橋市議会議員

はしもと 和子

市民相談はお気軽に 公明党控室 436-3032

希望の未来へ!あなたと市政のかけ橋に

平成26年第1回定例議会の報告をさせていただきます。

今回の議会は、主に平成26年度予算を審議しました。今まで取り上げてきた多くのことが実現します。以下7項目について質問をしました。

1. 運動公園整備について
2. (仮称)防災モニターの設置について
3. 接遇研修について
4. スクールカウンセラー配置事業について
5. 学校図書館整備事業について
6. がんに教育について
7. 地域防災力充実強化法(消防団支援法)を受けて



防災モニターの設置について

女性は地域に人脈を築き、地域のことをよく知っています。介護や子育てといった具体的な経験を通じて、子どもや高齢者、生活者の視点を持っています。こうした女性達が、災害時の担い手として、その力が発揮できるような仕組みの一つとして、防災モニターが設置されます。メンバーについて、家族の介護をされている方とか、特別支援を必要とするお子さんの居るご家族とか、ペットを飼っている方とか、また、実際に災害地に行かれた看護師の方や保健師の方など、現場の声を反映させられるように、幅広いメンバー構成をお願いしたところ、考えていくとの答弁でした。



様々な観点から議論し女性の意見が反映されることを期待します。

スクールカウンセラーについて

いじめや不登校等に関する児童・保護者からの相談等に応じるため、全小学校にスクールカウンセラーが配置されます。言葉を使うカウンセリングには、一定以上の年齢が必要との認識もあります。ただ、人数をそろえ、全学



校に配置しただけでは、なんの意味もありませんので、勤務時間など学校の要望に沿うような配置をお願いしました。

地域防災力充実強化法を受けて (消防団支援法)

東日本大震災では、多くの消防団員が自らも被災しながら水門の閉鎖や避難者に誘導に当たり住民の命を守って下さいました。その一方で多くの消防団員が殉職され、命懸けの職務であることが全国的に知られました。また、近年、局地的な豪雨や台風などの自然災害が頻発し、地域防災力の強化が喫緊の課題となる中、消防団の重要性が叫ばれています。



©NEW KOMEITO

昨年12月に消防団を支援する「地域防災力充実強化法(消防団支援法)」が成立、施行され、消防団を「将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在」と定義し、消防団の抜本的な強化を国自治体に求め、団員の処遇改善や、装備品、訓練の充実に向けた予算が確保されました。具体的には、階級や在籍日数に応じて設けられている退職報償金は、全階級



©NEW KOMEITO

で一律に5万円を上乗せするほか、報酬・出動手当の引き上げについて各自治体に条例改正を強く求めているのが特徴となっています。このことを受け、出動手当の引き上げや装備品の充実について要望したところ、前向きな答弁をいただきました。

学校図書館図書整備について



学校図書館の役割について取り上げ、図書の充実を訴えてきましたが、ようやく、全図書館の蔵書冊数が文科省の制定した「学校図書館図書標準」に達成します。

小学校約3万冊、中学校約2万冊が年3回に分けて購入されます。

読書は、言うまでもなく、子供が言葉を学び、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、生きる力を養うものです。

「読書通帳」の取り組みを紹介し活字離れが指摘される中、読書に親しんでもらうために、導入を要望しました。



「読書通帳」とは、図書館で本を借りる際に、専用の機器を通して貸出日や本のタイトル、ページ数などの履歴を預金通帳のように印字されるものです。

借りた本の履歴を目に見える形で残すことによって、子供を中心に読書への意欲を高める効果が期待されます。

*詳しくは、<http://funabashi.gijiroku.com/>をご覧ください。

はしもと 和子 090-5574-9079

ホームページ hashimoto-kazuko.jp

市政に関するご意見・ご感想をお寄せください。

